

第2学年・学級活動『わたしの誕生・その1』

- 1) 日 時 …… 平成 年 月 日 () 校時
- 2) 場 所 …… 校時 室
- 3) 単元名 …… 『わたしの誕生・その1』
- 4) ねらい …… ○生命誕生の仕組みに関する初歩的な理解を与えると共に、生命の尊さを自覚させる。
○自分や他人を大切にしようとする心情を育てる。
- 5) 主題設定の理由 …… 幼児や低学年の児童は、「赤ちゃんは、どこから来るの?」「どうして生まれるの?」という素朴な疑問、自分の誕生についての強い関心を抱いている。
そこで、素直に受け入れられるこの時期に、生命誕生の初歩的理解を与えたいと考えた。赤ちゃんは、母親から生まれるが、そのためには男性が必要であり、性交を通して精子を卵子のところに、届ける仕組みを理解させたい。更に、両親や家族の愛情に包まれて生まれてきたことを理解させ、たったひとつのかけがえのない自分の生命、そして友だちの生命をも大切にしようとする心情を育てたい。
- 6) 児童の実態 …… (省略)
- 7) 展 開

	指導事項	児童の活動と指導内容	指導上の留意点
5分	○学習の課題	○生まれる前は、どこにいたのだろうか。 ・お母さんの子宮の中にいたことを知る。 ○赤ちゃんはどのようにしてできるのだろうか。受精から誕生までの学習であることを知る。	・資料 ・母親の体内の図を掲示す。
	○母体の中で育つ生命 ・性交と受精	<p style="text-align: center; background-color: #fce4ec;">赤ちゃんになる最初のもと、何だったんだろう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・母親の卵巣の中にある卵子と、父親の精巣の中にある精子が必要であることを知る。 ○卵子の大きさは、どのくらいだろう。 ・とがった鉛筆の先の大きさであることを知る。 ・精子は卵子より、もっと小さいことを知る。 <p style="text-align: center; background-color: #fce4ec;">卵子と精子は、どのようにして一緒になるのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・父親のペニスを母親のワギナに挿入し、精子を卵子のもとに届けることを知る。 ・排卵されたたった一つの卵子に、排出された3億の精子のうちの一つが、結びつくことを知らせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・掲示物を使って名前を教える ・父親の役割をおさえる。 ・スライド(「赤ちゃんはどこから」北沢杏子著、こころとからだ、いのちの絵本)を使って説明する。父母の間には愛があり、「赤ちゃんがほしい」と相談しあったことをおさえる。

30分	<ul style="list-style-type: none"> ・胎児の成長 ・出産 	<p>○どうして、おなかの中の赤ちゃんは大きくなるの だろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・母親から栄養をもらってしだいに大きくなっていく様子を、知る。 <p>○何日ぐらいお母さんのおなかの中にいるの だろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・280日間、母親の子宮の中で育てられることを知る。 ○赤ちゃんは、どれくらいの大きさになって生まれてくるの だろう。 ・目に見えないくらい小さな卵が、身長50センチ体重3000グラムまで大きくなって、生まれてくることを知る。 ・お母さんも赤ちゃんもがんばって、母親のワギナから、赤ちゃんは生まれてくることを知る。 ・無事に生まれた喜びを知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・スライドを使って説明する。 ・へその緒の働きにふれる。 ・実物大の人形を抱かせる。 ・スライドを見せながら、説明する。 ・父親の協力についてふれる。
10分	○学習のまとめ	○自分の誕生について知ったこと、感じたことを書こう。	・今後の指導に生かす。

8) 評価 ・自分がどのようにして生まれてきたのか、およそ理解できたか。
 ・自分や他人を大切にしようとする気持ちをもてたか。

9) 日常化への手立て ・日常生活の中で、生命を大切にする心を、折にふれ意識づける。